





消冰思道復維  
消冰思道復維  
入枝條柳眼之秋  
入枝條柳眼之秋

星火

逐次  
逐次  
逐次  
逐次  
逐次  
逐次  
逐次  
逐次  
逐次  
逐次

北面  
雪封寒

窗梅



元禄卯五年

年  
九月廿日

〇五七五 七七

鹽野原村

八

榎

榎  
星平

星平八郎

嘉金

新撰朗詠集卷上 新撰朗詠集

春

立春

早春

春興

春夜

子日

若菜

三月三日

付桃

暮春

三月盡

閏三月

鶯

霞

雨

梅

付紅梅

卯



辛未月三

花 付落笔 躑躅 歎欠

夏

更衣 首夏 夏秋 端午

纳凉 晚夏 秋榴 莲

郭公 萤 蝉

秋

立秋 早秋 七夕 秋具

秋暮 秋夜 十五秋 付月

九日 付菊 九月盡 女郎花

秋 菊 蘭 槿 秋裁 紅葉

付落葉 雁 付翠鳥 虫 鹿

露 霧 樹衣

竹葉月三



冬

初冬

冬夜

歲暮

爐火

霜

雪

冰

霰

佛名

付除夜

付春分

春



立春

暮十一月十九日

澗深何氷水猶結高卑無山雪不消

立春十一月廿六日

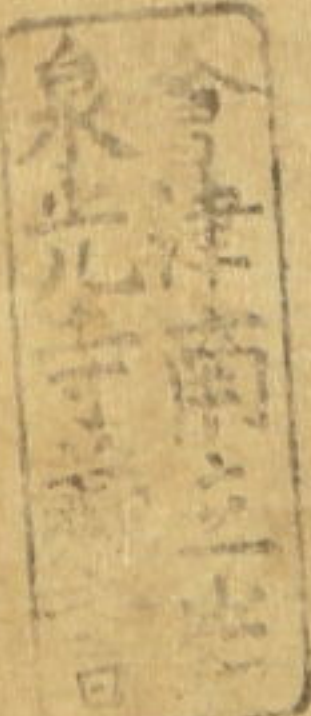
浮雲自後寒愈暖壯日如吟去不歸

旧年春

わらわらふと心とけぬとけぬとけぬ

立春日

春無跡至多尋得老趁身來去遊誰



落後集

茂馬茂



らぬわすれしめてふとみまはわく海の  
とらやまよもいあゆむるなりと

### 早春

早春  
林外雪消山色柳意前春浅似雪

初春詞六  
及之松深水則文漪動而紫葉勝着

之松幽溪則彩雲暖而黃鶯啼

巡檢山野  
煙生村巷遠知柳雪積墻陰暗辨梅

元日賜宴

不辭爭醉温樹下建春山外雪埋春

早春  
巖松雪宿暗山北岸草烟濃識水東

み海はよけのらもさるわらひ  
かよよのほやふも秋めよよら  
見しゆらハなほれきり記よか  
じとゆもさるるうらひあふ  
わらふのらさるわらふれ  
ねとれやまらきさるわらふれ

### 春興



綠油剪葉蒲新長 紅蠟粘枝杏欲開

秦城樓閣鶯花裏 漢主山河錦繡中

銅街陌柳條 翠竿金瓦園花片 一燃

居無常座揚 暫代筵 筵 筵 筵 筵 筵

為花向不同

中殿曙香從 吹深上陽春色 效櫻陶

萬事

萬事老來皆不敏 唯因多病少聰明

妻鬢山陰多歲雪 浮榮花下一時春

あゝ海わんむとみみをとやけのらふれ  
なにいそめりりのそふ乃くくよと  
おささゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
うれうれうれうれうれうれうれうれ

春夜

不胡不暗 勝三月 非暖北 毫湯之風







きんぐく先をふりてみそりわぬは  
りりら路もてりてむふまきりるは  
あつちさこれまきりてあつちさの  
ひさうらさるひまらぬけんてん

仁和後

三月三日 付桃

因流汎酒盃

昔成王之叙又周二且卜洛陽而濫  
錫今聖王之親舅尤慈相亦宅洛  
陽而宴飲

同

醉鄉國之依伴鄭泉而待水路酒澆

頌之文因巴字而流風情

批

濃輝可愛掩絳雪於仙家蟬作其

紀家

雙朝紅粉於奴榭

因流汎酒盃

水寫存軍三日會花膏重東園万日盃

匡衡

志遠晉日蘭亭飲羽爵周年曲洛波

三月三日屏凡

丁未月永一



















瓦檐回送香鳥來浴美樹を春女如啼

尺川の有りふあやありみりさるふさあや  
肩まよりさやもりとさきてそむひらあや  
そ路さ先れいれのあてこらあれあん  
やいはいそめさあやわらんあや

梅 付和梅

梅紀  
欽祥慈慮微と流津氣急時點の家  
芬香入簾夜涼薰熟之氣發之逼初

乾池春流之波

梅遊香入窓  
瑠璃扉落朝相邀翡翠簾殊ふ不

林香雨後梅  
羌見急曲枝涉溜至女別粧深曉風

梅遊香入窓  
半深林老花浮現水斜薰春初入珠簾

梅花殿上座  
南薰風与南枝色射會一時不奇

あゆまのいさあもふひめれんか  
いろをまかともま記るこけり



けりやとれびぢのぬらえもさくらん 萬感  
 けりひのほろろりまこかこまもさる 赤言  
 ひえくともさんりわ〜れぬまきりく  
 ころゆやのさくれりくほまららるる

紅梅

敬題紅梅

勢丹處る為龍便は春風之裁 タチ 花コシラ  
 絳雪の伊葉葉是北暖ぬ之波成 カラ ナスハナフサト アニ スヤダシ  
 葩皆三重不似流俗之樹色自再入 ハナミラハ ナ スニ リウシヨクノ キニ ハ ラサテ 頂

無待深人之功

洞深疑是仙 洞 深 疑 是 仙  
 雪水迎寒志海屋 雪 水 迎 寒 志 海 屋

不唯我愛人來乞一序紅粧並彩金

不道なみしめい路なは久て梅のそ那 不 道 な み し め い 路 な は 久 て 梅 の そ 那  
 かしらあもく〜よあゆもりりる か し ら あ も く …… よ あ ゆ も り り る  
 おろ積りり〜ああぬぬび先のりな お ろ 積 り り …… あ あ ぬ ぬ び 先 の り な  
 ぎ〜路〜人よゆさ〜あま〜 ぎ …… 路 …… 人 よ ゆ さ …… あ ま ……

柳



雲柳詩

不知細葉誰裁  
二月春風剪  
不識細葉誰裁  
二月春風剪  
二月春風剪  
二月春風剪

桐葉暎月蒼々

白雪花繁  
白雪花繁  
白雪花繁  
白雪花繁

彭宅門深  
彭宅門深  
彭宅門深  
彭宅門深

春煙眠足  
春煙眠足  
春煙眠足  
春煙眠足

曉眼不眠  
曉眼不眠  
曉眼不眠  
曉眼不眠

みらぬ人の  
みらぬ人の  
みらぬ人の  
みらぬ人の

花

王船勝  
王船勝  
王船勝  
王船勝

新撰詩上



錦帷香字從眼曉 及芳書快之下

遠條十二因緣 有多勝三子世界花

白風唐帝 為房女 粧咲 秦醫一里兒

山實拾得 延劫及 園場 孤及を 娘春

望疲雲 炭子 條雪 路入 燈村 一色 二氣

落葉 灑衣 春拂雪 淡粧 沈酒 曉影 處

東の光をふ

淡相 閑を 鏢雪 曹王 園舊 出藩 春

校苗 彩風 桃 深月 淡織 深影 柳 夜風

六十 緋回 看未 飽他 生定 化花 乞死人

粧 敏志 鳥 特家 園 落馬 嘶 踏 寒風

わさみとらさの くれおすも 八津く 先とも  
あゆまうとく ありふれさう ちか  
を心さてう ひももさひ くらやま ちか  
りぬめそやと 乃あけ ちか











しつと死のをもととせしゆの婦乃とれ  
ゆるふ屋とれとるしとるの婦乃とれ  
ゆいなるんのかきまらきしとるの婦乃とれ  
しつと死のをもととせしゆの婦乃とれ

夏

更衣

早夜初海 獨騎長馬術澄穂初着單衣カサシ 體テイ 體カ  
締衣チ 新イ 製ニ 裝セ 裝メ 裝イ 裝フ 殺シ 倫ン 倫カ 倫カ 倫カ

しつと死のをもととせしゆの婦乃とれ  
ゆるふ屋とれとるしとるの婦乃とれ  
ゆいなるんのかきまらきしとるの婦乃とれ  
しつと死のをもととせしゆの婦乃とれ

首夏

大森寺地蔵殿 長恨春收テ 玄イ 見ラ 虚モ 不ト 知ク 將ク 入ル 世ノ 中ニ 来ル  
早夜雨録 林ラ 羅ノ 深キ 又ニ 赴ト 法ト 凍シ 移ラ 榻シ 閑シ 襟シ 及シ 目シ 長シ  
しつと死のをもととせしゆの婦乃とれ  
ゆるふ屋とれとるしとるの婦乃とれ  
ゆいなるんのかきまらきしとるの婦乃とれ  
しつと死のをもととせしゆの婦乃とれ

夏夜



日長私短懶晨興及漏遲的聽郭云

池柳消暑

月沈蘋藻銀鈎氣風觸松杉玉軒輝

友池消暑詩事

水煙半濕綺羅冷山房初昇樓閣的

あふりうまはうしほれりうさるしや  
ほらうくわけくくやしあさうらぬ  
さうのさうまうさよあまうあをわら  
くもれいほこしはさなをらら  
ゆはゆとみまうらよあさくぬあま  
わらんもほくとやこのんれはあ

端午

五月菖蒲素持若每逢五日已成節

あひのよれなまはゆさきんきふそや  
あやめのくさくのゆうささうさ  
くさぬをこさゆもあやめれくさま  
わさしよこのよさうさうりま

納涼

緑竹掛衣涼也想清風展簟因时眠

池上御事

白



避暑 碧樹漸知隨念夏清涼者氣与天同白

和名 桂月清の夏迎一露之林松風蕭瑟白

晴宇百尺之角白

納涼 若蓄風情炎凉冷我垂霜鬢交中秋善ね

遊見 銜秋水上子嚴冷礙日林間亦有寒樓幽吟

曉夕多清涼 扉正飛鶴吹風翅草滑陸鷄欲有音江時棟

そのゆわきののびるるをこれうたへり  
あつたすしきさうしきあつた  
あつたやいれまのいんまよくゆま  
あつたあまのうららうとま

花梅

貞梅 珠顆形容は日長瓊漿氣味は秋成白

邪梅 盛夏花留三伏雪嚴冬子焚一株金新

屋とらうくをれらるまはゆりうけ  
ひー返らうはまよとをらる

顆  
ニヨリ

邪梅

貞梅

花山渡

新

好忠

湯村

取



さばや... 相模

晩夏

但各類見者

日催鳥羽芙蓉暉云風軟金高氣味幽

おのわ... 忠孝

蓮

ハナス

為香洲歌

露涼中深眠沙鶴風冷然黃戲藻魚

秋水為葉

流濃色殊風脆打岸毫新晚浪香

蓮浦落紅

潮客行跡在自將波信衣錦欲何如

あめく... 六葉文

郭云

又存更云外終二三更後雨中等



みやまのこころよりよきまはるの月を  
 わらふよかきくし心乃きあふ白歌  
 小辨  
 縁ゆよまのこころはありおほいほ  
 こころよまのこころはありおほいほ  
 俗名は  
 心やあふれぬはつらやがよま  
 心やうらやまをよまよてよま

螢

晴堂実見 ハクニヒヒツツ  
 翠箔燈影秋の月 ホトリニヒルテス  
 螢花 ケシカノ  
 南薫香遠飄不散 ノウチニヒルテ  
 螢花 ハクニヒヒツツ

同歌

蕙花清珠 ニハラヒク  
 浦柳葦村 ニハラヒク  
 映虚 ニハラヒク

心あり火の油 ニハラヒク  
 心あり火の油 ニハラヒク  
 心あり火の油 ニハラヒク  
 心あり火の油 ニハラヒク

蟬

芭郎死後 ユラ  
 能楽 ユラ  
 柳緑 ユラ  
 歌 ユラ  
 魂 ユラ  
 風 ユラ  
 底 ユラ  
 失 ユラ  
 何 ユラ  
 尋 ユラ



西遊蟬色歌

響音級紅霞張檣下冷定緑重老槐間

蟬

秋は秋来雪不改今年祥似去年序

可人のあゑさけりておろしれり川あはれも

同院御方命

ゆきももるにさるるのくさりふなかくはる

秋

立林

ツカセ  
ニワカ

凉颯忽扇物先急直気為槐氣早来

壁蒼家之音始祀素素康に薬初回

夜涼月桂瓊鞠新杖法風槐一葉祥

あまらにしもおせのともしるるなりぬる

わささく日なはげんもひひくも

わささく乃すくくもあつらふす

さあもやもよやあさかへんらぬ

早秋

丁未月詠上

三三

三三











林池秋具  
新指良言

二十五

露滴暗叢螢火濕風吹曲岸驚線  
わび乃いこころしりれあふそふ  
かこみあしあしともしもこゆのりかれ

秋晚

入楼早月中秋久遠郭是渺空  
おのろまわくおろまろる屋もれにやのふ  
おせあそくくくくわあそこのゆふく

秋夜

早蚕鳴後歌殘燈消又的滿空如  
おのろまわくおろまろる屋もれにやのふ

西芭蕉先有  
おのろまわくおろまろる屋もれにやのふ

梁鷄柳多聲唱笛吹向子約之隣  
おのろまわくおろまろる屋もれにやのふ

月皓而難須知悉楚屈愿之舍  
おのろまわくおろまろる屋もれにやのふ

暗風飄幌氣殘漏滴階群怯齒今何  
おのろまわくおろまろる屋もれにやのふ

在縱霄動石情  
おのろまわくおろまろる屋もれにやのふ

新指良言

二十五















九日 付書

九日 晴 燁燁 秋意初過 雨葉黃更 又後未盡 紅

菊芳深層 慈後知 中賜之 已飽氣力

補性 於後 約天 子之 難也

賜在 帝恩 念湛 露若 後天 意混 流霞

便採 孤叢 秋露 猶北 祖又 柳曉 雲孫

九月九日 秋意初過 雨葉黃更 又後未盡 紅

菊

九月廿七日 孰不謂之 色秋 孤叢 更

三莖 孰不謂之 殘菊

菊氣 孤叢 後 數代 戴霜 共立 玉欄 前

東籬 方過 南窗 主家 弟致 知冬 曆兄







拾遺

行一先とらぬらもや海らぬ地よ  
すまひげよと移くもぬす一とる

### 女郎花

逸女郎

一叢<sup>モ</sup>面<sup>モ</sup>原<sup>モ</sup>入<sup>テ</sup>穂<sup>ニ</sup>發<sup>ス</sup>黃<sup>ク</sup>又<sup>ク</sup>花<sup>ノ</sup>中<sup>ニ</sup>無<sup>シ</sup>比<sup>シ</sup>也<sup>ナリ</sup>

天生<sup>ニ</sup>花<sup>ノ</sup>麗<sup>ク</sup>粧<sup>シ</sup>冷<sup>ク</sup>地<sup>ニ</sup>与<sup>テ</sup>英<sup>ニ</sup>蕊<sup>ト</sup>又<sup>ク</sup>方<sup>ノ</sup>黃<sup>ク</sup>

花<sup>ノ</sup>麗<sup>ク</sup>粧<sup>シ</sup>冷<sup>ク</sup>地<sup>ニ</sup>与<sup>テ</sup>英<sup>ニ</sup>蕊<sup>ト</sup>又<sup>ク</sup>方<sup>ノ</sup>黃<sup>ク</sup>  
花<sup>ノ</sup>麗<sup>ク</sup>粧<sup>シ</sup>冷<sup>ク</sup>地<sup>ニ</sup>与<sup>テ</sup>英<sup>ニ</sup>蕊<sup>ト</sup>又<sup>ク</sup>方<sup>ノ</sup>黃<sup>ク</sup>  
花<sup>ノ</sup>麗<sup>ク</sup>粧<sup>シ</sup>冷<sup>ク</sup>地<sup>ニ</sup>与<sup>テ</sup>英<sup>ニ</sup>蕊<sup>ト</sup>又<sup>ク</sup>方<sup>ノ</sup>黃<sup>ク</sup>  
花<sup>ノ</sup>麗<sup>ク</sup>粧<sup>シ</sup>冷<sup>ク</sup>地<sup>ニ</sup>与<sup>テ</sup>英<sup>ニ</sup>蕊<sup>ト</sup>又<sup>ク</sup>方<sup>ノ</sup>黃<sup>ク</sup>  
花<sup>ノ</sup>麗<sup>ク</sup>粧<sup>シ</sup>冷<sup>ク</sup>地<sup>ニ</sup>与<sup>テ</sup>英<sup>ニ</sup>蕊<sup>ト</sup>又<sup>ク</sup>方<sup>ノ</sup>黃<sup>ク</sup>

### 萩

一秋<sup>ニ</sup>有<sup>リ</sup>葉<sup>ト</sup>号<sup>ス</sup>芽<sup>ト</sup>花<sup>ト</sup>麝<sup>ト</sup>子<sup>ト</sup>鳴<sup>ク</sup>時<sup>ノ</sup>世<sup>ノ</sup>道<sup>ノ</sup>者<sup>ナリ</sup>

あはれむせいのとらぬらぬら海なる人  
ゆき雪より移らんもさう乃もあみよ  
おきくもあひたまらんやまき乃  
りあいのとらぬらぬら海なる人

### 蘭

波<sup>ノ</sup>白<sup>ク</sup>遠<sup>ク</sup>貫<sup>ク</sup>吹<sup>ク</sup>秋<sup>ノ</sup>水<sup>ノ</sup>雨<sup>ノ</sup>波<sup>ノ</sup>子<sup>ト</sup>和<sup>ク</sup>動<sup>ク</sup>雲<sup>ノ</sup>竟<sup>ク</sup>

拾遺







# 紅葉

大井河和百布

紅葉又紅葉連葉之風淺深若也

又蘆花斜岸之雪遠近

紅林之有重喜目未後夜喜更綠春

紅葉嵐深忘晴雨蒼花日苦綠葉若

山雲秋後酒香和獨好

塘河系下

いふふれはたさくあられぬもみららしきゆ  
まろくのりり乃うとくくろくおん  
いづくうらうらゆとやうめんみららし  
以路うらもろそらうらりあふ

# 落葉

長去賦序文選

落葉候微風以墮風之力蓋厚

遭雍門之泣羽今之感已未

征馬鳴河林踏仙家之雪霜禽斂翅











養恩詩巻滿身秋

終練鄉音吟秋身短飲露結幽晚思深

野醉道底卷

吟意強煙光正將羞吟枕淚難乾

夜潮浪園卷

媚園枕冷吟風曉孤館長強悲雨秋

のう海のせみとてくひのひ  
まればふものごとひとてくひのひ  
あつちやるけいもの地よりくれいよふ  
まごころゆくのわ紀ハ掌めそくけいよ

席

秋山席と葉零と塵床の於塵百

憶眉麻場漢芳庭下林鳥入夕陽端

あつちのひそあまめれおとこめまきこらゆる  
とのくくさくしけねやとくくらあ  
けむじしよふとてくくさくやとくく  
わさこれのくくさくやとくく

露

看取風濤何取似瓊瑤底水精丸

丁未用永上



白雲疑

新撰詩

三十七

蒼葭夜色涼銀漢翠女秋粧紅粉秋夜

るれわらわらめかきこもくやむらけけらね  
ものありやまのさくらさく人のけり  
しらたそそめはゆそとくさうわすれめ  
くもろくろくもさるんやうすらる

霧

秋夕霧お霜  
浅深に暗千峯曉濃淡粧分重なり  
あけさうらふゆめありあもれらひき  
ゆふさうやまのさるんやうすらる

あをいけけみろりれさるれ  
よとのわさるあはれさる

擣衣

貧鴈渡系書飛上林之霜忠臣何在寡

妾橋衣泣南樓之月良人未返

榜自金颺秋苦冷催粧素月秋來晴  
多角霜葉暮林夕影浪雲浩茫寒輝

新撰詩

三十八



抄巻の月中

寒踏霜乾杖韻遠端園雪冷曉輝空

雪冲級造画人及霜後深来接乃空

うゝゆふよわあをぬゝんかゝらあを

冬

初冬

霜未殺蔓草卓日暖初乾漠々

劉禹錫

清洛曉光銷玉簪上陽霜葉舞初晴

五株楊柳雨色更三叢菊飽霜花

わゝれゝふおわれてすゝゝはのゝみあふ

冬

爐火欲消燈欲盡夜寒相對百頭生

秋衣漸織子山雪曉視初晴

丁未月永

三



志をいふぬぢりてふふさゆりありよよを  
かものうらむをさしひらきわき

歳暮

善哉松竹雪初霽海院地境去秋廻

急於流水去如奔車幾物

わすれりもらまゆもれひさす  
かゝんらなよのさるれも

燄火

心灰不及燄中火鬚雪多於初下霜

碧穗帳上正飄雪紅火燄お初霜

遠憐珠初銀菱花迎也昔家歎炭流

よのめ乃こころあといん  
うたわらぬもれみひ

霜

霜  
冬月霜賦  
雪存曉殘約皎燈花表之頂初陽

田水



且照守梁溪於九海之中

早

林密織者黃絲續沙渚室集白水

種也

寒竹自森三危結暗落先秋

我園

を敷並去れ非野曠又裁集錦不

うららえぬとささる糸ハと

雪

歌

秦宮訪花名古洞度云看月

早

班水秋解已亡色疎子

葉中

園夜於幼的月地人間

雪

胡塞吻花名古巴山

地

他白粒遺停平氣山

やまよとハゆとハゆとハゆと







ふまふていぬあ〜れあふよのこひひあよ  
あふもとらゆきんもろこやハねりふ

# 佛名

道場テリ夜ヤシ子シ香カ花ハ冷ヒヤ花ハ生ナ統トウ都ト礼レ公コウ名ナ

穢セ拋バウ棄ク障シヤウ水スイ濁ダク地チ破ハ却キヤク世セのノ目メ上ジョウ天テン

あ〜〜乃〜ら〜は〜は〜り〜ま〜る〜は〜し〜こ〜の〜ら〜に〜  
ぬ〜五〜し〜ゆ〜こ〜も〜し〜り〜お〜ま〜さ〜し〜あ〜ん  
け〜ま〜い〜り〜の〜な〜の〜と〜と〜あ〜ら〜ま〜  
ら〜う〜と〜い〜あ〜ま〜こ〜し〜こ〜し〜あ〜ら〜ま〜

上巻終

佛名

一



座方有竹良不知

寺方狂記度乘之

毎の業のせよあたま

三つていつく

あゝく

度副經丸丸

維時享序

今洋人

イロミ

千リ

目んし

い

ア

サ

正

一人の

丸

丸

丸

丸

丸

シ

丸



今澤十田山

のり

十樂山  
泉光寺

あふの年か始りしは萬り  
とる川下なるまはるる







死を以て酒を以てするは  
酒を以てして酒を以てする  
死を以てして酒を以てする  
死を以てして酒を以てする